ドイツ連邦食料・農業省　農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 11
2022・8・29

1　２０２２年　連邦食料・農業省オープンデーに 2500 人の来場者
ー４つのテーマで多彩な催事を実施ー　　（2022・8・22）

”農業は未来を創る　持続的に”

これは 2022 年のオープンデーのモットーである。今年のオープンデーは、8 月 20 日から 21 日まで、ベルリンの連邦食料・農業省（BMEL）の庁舎をメイン会場に開催し、2500 人の市民が来場した。今年は気象ー動物保護、種の多様性そして持続可能な食料を、主要テーマに開催し、来場者に貴重な情報を提供した。

主な内容は、例えばどのようにして持続可能な食料の確保が成立しているのか。

省内に設置した蜜蜂の巣箱を観察するオズデミール大臣

また、なぜ湿地が必要なのかを体験できる。

また、美味しい料理のレシピと、日常の実践的なヒントを示している。

つまり、食料の浪費を少なくするための取組みを、支援するためである。

オープンデーの感想

2022 年のオープンデーのテーマ：

・気象保護　　・持続可能な食料　　・動物保護　　・種の多様性

多くの共同の可能性と並んで、訪問者がさらに舞台裏に目を投げかけ、そして我々の省による案内にも参加できる。蜜蜂のフアンは、省内に設置した独自の巣を訪れることができる。

栄養チェックポイントが、8 月 20 日～ 21 日に、連邦食料・農業省のインフォーメーションセンターに設置される。この地ベルリンのフリードリッヒ 130 で、大小様々なアクテイビテイが提供される。それは楽しい方法で、健康かつ持続可能な栄養テーマでもって、体験出来る。

子供達のために、メモリーゲーム（裏返しのカードの中から、同じ図柄のカードを見つけ出すゲーム）などのコーナーが、設置されている。

テーマ分野の展示

4 つのテーマ分野では、連邦食料・農業省の仕事と課題、そしてそれに関連する分野における利害関係者が、情報を得ることができる。

テーマ分野：持続可能な栄養

ー IN　FORM（健康な栄養とより多くの運動　ドイツイニシアチブ）は、日常生活における健康で持続可能な料理と運動奨励のヒント
ー ”ゴミ箱に捨てるには良すぎる”！　食料の浪費を減らすための市民科学プロジェクトの紹介
ー 連邦栄養センター（BZfE）が、将来の食事プランのための情報を紹介

ー 連邦農業情報センター（BLE）が、マメ科植物に関するクイズを提供
ー 持続可能な購入アシスタント「人工頭脳（KI）ー研究プロジェクト」の紹介

テーマ分野：動物保護

ー フリードリッヒ　ローフラー研究所（FLI）が、動物保護改善のための研究プロジェクトを紹介
ー 連邦食料・農業研究所（BLE）が、ネットワーク フォーカスと家畜の福祉に関する共同活動を紹介
ー 有機農業における鶏の「2 つの利用目的（卵と鶏肉)」プロジェクトの紹介

テーマ分野：種の多様性

ー ユルウス キューン研究所（JKI）が、蜜蜂と野生蜜蜂保護のための対策の紹介
ー チューネン研究所（TI）が、野生蜜蜂―モニタリングにおける観察、漁業における望まない魚種の混獲を減少するためのスマートネットワークによる監視の紹介
ー 連邦消費者保護・食料安全局（BBLV）は偽造蜂蜜の検出テーマの紹介

ー 連邦プログラム「有機農業」がチューネン研究所によって有機農法ネットワークを紹介
ー 調整情報共同センター（IBV）が生物多様性の紹介

テーマ分野：気象保護

ー 連邦プログラム腐植・気象保護政策としての「腐植」の蓄積
ー 再生可能資源庁（FNR）がテーマ・気象危機の中の森林と泥炭減少に関する考察
ー 連邦植物品種局（BSA）がテーマ「食料の確保と気象」を紹介
ー 農業における建築方法と技術のための理事会（KTBL）が、問題「農業者は気象についてあらゆることを知るべき」について紹介

ウクライナ難民のための約束

連邦食料・農業省（BMEL）、連邦国土省（BMI）、連邦家族・高齢者・女性・青少年省（BMFSFJ）の共同で、ボランテイアの社会参画のためのドイツ基金（DSEE）が、ウクライナからの難民を支援する。オープンデーに際して、このプロジェクトを通じた現在の情報を提供する。

農業省のキャリアは？

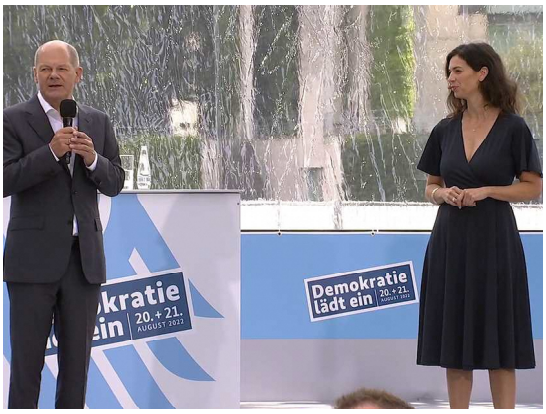
連邦食料・農業省の組織的な構成はどうなっているの？　どのようなテーマと課題を、どこで実行するの？私はこの省のキャリアに適格でしょうか？

省とともに働いている人は、関心をもつ志願者に情報を提供する。

ステージプログラム

音楽、トークそして料理ショー、オープンデーのステージ上で多彩な催事が繰り広げられた。

参加者と交流するショルツ首相

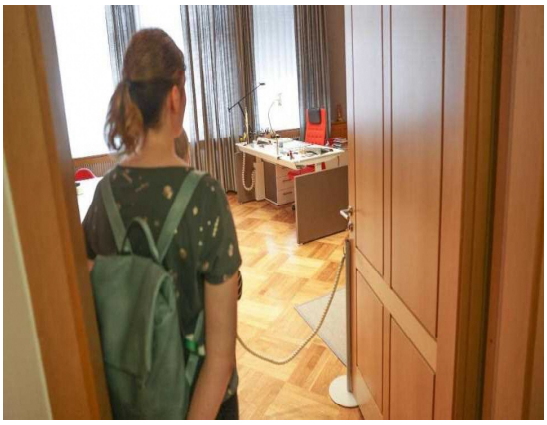


市民との対話集会に参加したショルツ首相

子供達の質問に応える省のスポークスマン
一緒に記念撮影

牛の目で見る VR メガネ（拡張現実）

シルビア ベンダー国務長官の講演



大臣の執務室を覗く

2 連邦農業大臣オズデミール公表：2022 年穀物収穫量が光と蔭を ー干ばつでトーモロコシが前年比-21.5%、小麦が+4,6%ー（2022・8・26）

食料主権のために気象保護と気象適応を促進。

気象危機の結果、ドイツの農業に予期せぬ困難が生じている。これは 2022 年の公式収穫報告が示している。連邦食料・農業省（BMEL）オズデミール大臣が今週金曜日（8 月 26 日）に公表した。2021 年に地域的に激しい降雨と、そして今年の猛暑並びに極端な干ばつ、時々の突然の悪天候ー各地域の農業者に非常に異なった対応を迫った。これに加えて昨年の全体的に少ない降雨の結果、土壌乾燥の拡大と地下水の低下が生じている。

2022 年の穀物収穫量を公表するオズデミール大臣

連邦食料・農業大臣オズデミールが、この報告について説明した：
”気象危機の結果は、畑と牧草地に読み取れる。我々の収穫量報告は、多くの気象危機の証明書でもある。今年は、殆ど全ての地域で早期に脱穀し、掘り起こし（バレイショ）または摘み取りされた。収穫には、光と蔭が見られる。幾つかの地域間または、特定の作物に良い収穫が報告されている。しかし、他の地域での経営は部分的にひどい損害を、受入れねばならなかった。

しかし、この報告は一部の農業者は、既に気象変動に対応した暑さと乾燥を、適切に回避出来る品種や作物に、転換していることも示している。収穫は様々な地域と作物において、非常に異なっていることに、目を向けなければならない。”早期に収穫できる小麦、ナタネのような越冬作物については、予期しない良い結果が得られている。そのような収穫を得た農業経営は、全体的に前年よりも多い収穫量になっている。その該当作物は、秋と冬の降雨で度々恩恵を受たからである。

非常に悪い収穫は、トーモロコシに見られる。これは播種の遅れによって、特に強い乾燥の被害を受けた。似たような状況はビートにもみられる。 草地もまた干ばつによって、各地域で飼料収量の低下があった。良い収穫は果物、例えばサクランボそしてりんごもまた、良い結果が期待されている。
そして私は望みたい。我々が今年の終了後、野菜の状況についても（特に有機野菜についても)、前年同様に再び良い成長度合いを、報告できるように。”

オズデミールはさらに続けた：”我々は感謝し、そして今年の収穫も、部分的には満足している。なぜならば、農業者は、我々のこの時代における複数の危機に際してもまた、食卓に健康で高品質な食事を提供してくれている。将来を見通して、地元で生産された農産物の割合を、他の部門においても高めることが重要である。この間ドイツにおける多くの野菜が栽培されており、これもまた食卓に供されている。

農業者は、大豆やエンドウ豆のような蛋白作物を、さらに多くの地元産飼料を、家畜に与えるために、栽培を増加させている。我々の蛋白作物戦略でもって、さらなる刺激を与える。そして気象被害を受けている大豆一輸入については、南アメリカの雨林伐採を助長させることになるため、これを断念させたい。

大変良いこと：それは多くの農業者が、栽培プランでもって変化する気象に対応することである。フランケン地方のメロンとバイエルン州のひよこ豆は、どちらかというと、まだ南方産作物である。将来において乾燥に良く耐えられる他の作物栽培または品種が、増々多くの圃場で重要な役割を演ずる。例えば、レンズマメのように、テスト済みとして忘れることのないようにすべきである。”

ロシアのウクライナへの国際法違反の侵略は、グローバルな食料システムにも、影響を及ぼしている。市場は脅威的な不足に対して、高価格で反応している。デイーゼル燃料、肥料そして除草剤のような経営資材もまた、高価格になっている。これに応じて農産物も高くなっている。この影響は、野菜、穀物のこれに応じた供給は、収穫結果に条件づけられて、その結果食料品価格の高騰が懸念されている。

連邦大臣オズデミールは強調した：”生産コストの上昇したところが特に、食料の価格が上昇している。ここでは、重要なテコが存在する。これについては我々は支援する。例えば、特にロシアからのガスに依存して生産しているエネルギーを、集中使用する合成肥料への依存から脱却することを、我々は支援する。気象結果によって生じた被害もまた、重要性をもつ。1 つの研究では 2018 年と 2019 年だけでも、暑さと干ばつによる被害は、250 億ユーロ（約 3 兆 2 500 億円）以上の額となった。そのうち、44 億 €（約 5 720 億円が、農業における収穫損失額である。”

私にとって重要なこと：予防が治療に勝る。投資は被害額よりも予防することが意義深いと、大臣はのべた。”そのため、我々は気象ー環境に優しく経営することで、農業者により良い報酬で報いたい。そしてそこでも、消費に際して多くの潜在力があること。穀物の 60%が食卓上の皿に代わって、現在飼料桶とタンクの中に積み込まれている。さらなる生産向上をしたいこと。我々の自然的な基盤を使い果たすこと。そして同時に食料の安全を、危機に晒すことは、ハラキリ（切腹）である。同時に我々の食料の確保が危険になる。”

2022年の収穫報告からの重要な数値、データそして現況

穀物：

穀物は全体でおそらく約3 970万ｔ（トーモロコシを除く）に達し、そして今年は前年対比で 4.8%増加している。6 年間の平均に対比して、1.5%の増加となっている。だがしかし、地域毎に非常に大きな違いがみられる。この数年間で最も高い増大は、シュレースヴィックーホルシュタイン州が＋ 10.9%、メクレンブルグーフォアーポーメルン州が＋ 8.6%,ノルトラインーヴァストファーレン州が＋ 6.5%、そしてニーダーザクセン州が＋ 6.2%を示している。最も強い減少は、バイエルン州が-6.7%を記録している。

トーモロコシ：

現在の状況は、7 州の評価が裏づけている。それによると ha 当たりの平均収量は、約 7 500 ｔを記録している。干ばつ年 2018 年の ha 当たりの平均収量 8 140 ｔを下回っている。今年のトーモロコシの総収量推定値は、350 万ｔ見込まれる。これは前年対比で 21.5%も少なく、6 年間の平均収量よりも 12.7%低い。トーモロコシのこの悪い結果は、ドイツの穀物収穫量全体のバランスを押し下げている。

ナタネ：

2022 年のナタネの収穫量は多分 30 万ｔ強で、特に今年の暑さと干ばつを背景に、非常に好ましい結果になっている。前年対比で量的な増加は約 22.3%である。2016 年から 2021 年までの平均の比較で、14.8%多い。

蛋白作物：

エンドウ豆はドイツにおいて最も多い豆類である。2022 年の暫定的な栽培面積は、約 106 600ha である。ソラマメは約 71 200ha そしてルピナスが約 31 700ha と続く。前述の豆類の栽培面積の合計は、前年と比較して 19%強の増加で、約 260 900ha となった。約 50%は大豆の増加面積で最も多い。マメ科作物の現時点での収穫量について、信頼ある推定値はまだ提供できない。

2022 年猛暑と干ばつで地割れ

乾き切った畑の土埃り

枯れ上がったトーモロコシ

冬季間の降雨で冬を越す
小麦の実りは順調

越冬作物のナタネの成育順調

必死の潅水対策

3 連邦政務官の現地視察：気象変動に対する森林の管理

ー混交林や地元に適した広葉樹の植栽など森林転換を奨励ー（2022・8・17）

森の空地で自然な若返り

連邦食料・農業省（BMEL）政務官 Dr.マヌエラ ロットマンと連邦環境・自然保護・原子炉安全省（BMUV）政務官 Dr.ベッテイーナ ホフマンが、ブランデンブルグ州にある自然に密着した森林管理を行っている林業経営を訪れた。気象危機の結果、森林は苦しんでいる。森は少ない雨と高い温度によって衰弱している。特に自然からかけ離れた森林は、近年害虫、病気そして火災によって抵抗力を失っている。そのため、自然に密着した森林管理が重要になっている。

なぜならば、生物多様性の場として森林を保ち、そして変動する気象に耐えうるようにする。森を保護し、森を活用することによって、成果を生み出す。
森の持っている機能をどのように機能させるか。

両政務官は、今日（8 月 17 日）にブランでブルグ州の林業経営を視察した。この林業経営の目的は、自然に密着した林業での木材生産である。また、この林業経営はその地域に適した樹種の高い割合を有し、そしてさらに発展させることに努力している。

政務官　Dr. マヌエラ・ロットマン：　”気象危機の結果、干ばつや森林火災によって、多くの森林が失われた。そのため、森林が果たしている自然的なエアコン機能が失われ、そして同じく多くの動物ー植物が消滅し、価値多い再生可能な原料木材が焼失した。これらの被害全てについて、ドイツにおける我々の森林を、残念ながら近年増々注視しなければならない。

しかしながら今日の訪問でもって、我々の森林が前途有望であることを確信できた。我々はどのように自然により近い森林転換を成功させるか、その良い事例を今日この地で確認できた。この経営は、この地で典型的なマツの単作の代わりに、次世代のための混交林に目標をおいている。今、針葉樹単一から地元に適した広葉樹を交えた、混交林への転換が重要である。なぜならば、我々の森林が気象危機のリスクに対して、抵抗力を持つことが重要であるからである。我々は目的とする奨励でもって、広い範囲における森林転換を実施する林業経営を支援する。

これは気象変動に強い混交林に向けた植林の奨励である。我々の森は、気象保護と生物多様性のホットスポットになっている。私は、この調査旅行で自然により近い森林のために、林業経営のオーナーが、様々な対策を実施していることを目にした。古い樹木や枯死木は個別に利用している。農薬は使用しない。

この林業経営は、基本方針・若木を野生動物から守る対策に、特別な重きをおいている。

なぜならば、鹿を中心とした野生動物が、若木の芽や葉を好んで喰うために、森の自然な若返りの大きな障害になっている。このため、狩猟協会と協議の上決定している野生動物の一定数を、駆除することとしている。また、植林に対して自然的な若返りは、干ばつが増加しているこの時代に、決定的な利点となっている。特に注目することは、炭素蓄積量である。この経営は、干ばつ気象の救世主として、持続可能な林業を通じた森林の潜在力を促進する。

政務官 Dr. ベッテイーナ・ホフマン：”私はここに来て大きな感銘を受けた。慎重なそして非常に熟考された林業経営が、自然に密着した森林構想でもって、現在の潜在力を活かしている。生態系システムとして森林を位置づけし、保護しそして利用している。その優れた結果を、ここで直接見て触れることができた。森は緑でそして湿っている。なぜならば、大きさの異なる樹木が、土壌を日陰で覆い、そして水分の蒸発を防いでいる。

気象危機の結果に対して、枯死木や穴や窪みをもった古木は、キツツキ、コウモリそして昆虫類のために棲息空間を提供している。我々はまさに商業林を必要としている。健康な森は、我々の自然的な生活基盤に属しており、そしてこれを長続きすることが重要である。森は気象の保護者であり、バランスのとれた水分代謝、人々に保養空間を提供する。

そして生物多様性のホットスポットでもある。このため、自然からかけ離れた林業から、自然に密着した気象抵抗力のある生態系システムへの連邦環境省の森林政策の重要な礎石である。”

連邦政府の生態系システム機能のための情報
ー森林の生態系システム機能のための奨励ー

連邦食料・農業省は、これから 5 年間で 9 億ユーロ（約 1 170 億円）を、ドイツの森における気象保護と、生物多様性の保護に投資する。ドイツ連邦議会財政委員会は、2022 年のこの課題に対する財源を認可した。これの実施は、今年の気象に適応した森林管理への投資を始める。この奨励は、私的、そして地方自治体の森林所有者が申請できる。

この森林は法的要請の上位にランクづけされ、林業証明システムの基準に沿って管理運営されていることが条件である。そして同時に気象変動に対する森の適応力を強化する。例えば、皆伐は禁止される。新しい森林育成の促進は、さらに現地に適した樹種が、導入されねばならない。そして大規模な森林には、その空間で木材利用が排除された自然林が設けられる。また、生物多様性確保のための空間が与えられる。ここでは、連邦環境・自然保護・原子炉安全省及び連邦消費者保護省が、自然気象保護プラン（ANK）に投資する。この行動プランは来年策定される。

連邦森林法の改正

この法改正に際して、連立政権協約の森林転換のための枠組み条件から、緑豊かなそして気象変動への抵抗力のある森林の大部分を、地域の樹種でもって創り出すための森林管理を実施する。この法は 40 年以上と古く、そして変化の少ない時代を経過してきている。そのため、連邦政府は、新しい挑戦をベースとした法全体を、新しい課題に適応させることを企画している。

林業被害ー補償法の改正

気象危機の結果、1969 年に発効したこの法は、現代の林業被害に対応できていないと、評価されてる。このため、この評価を基礎に、この法が危機対応手段としての法に発展させる。

木材建築のイニシアチブ

持続可能な地方森林管理は、有限資源の大切さと気象保護のために、重要な貢献を果たしている。そのため、政権協約において木材建築への転換に合意している。この目的と連邦建設省（BMWSB)、連邦食料・農業省そして連邦環境・自然保護・原子炉安全省が、都市発展と土木建築に関して、可能な政策に合意している。さらに研究、革新、知見移転の促進目的は、木材による気象に優しい建築と、再生可能な原料を目的に促進される。

自然に密着した古いブナ森林の保護

連立政権協約によれば、連邦政府は今ある目標を追求する。古くそして自然に密着した公的な所有におけるブナ林の伐採を、ストップさせる。このことは、生物多様性―気象保護における先駆者として、連邦の所有林において最初の一歩を踏み出す。これに続いて他の森林所有者、つまり、各州と地方自治体がボランテイア同盟を通じて実施する。

現地視察・中央 2 人が政務官

単一樹種から混交林に転換

樹間空地に若返りの若木

ドイツの森の生態系に君臨する狼
絶滅した狼が 100 年ぶりに
ドイツの森に復活

4 オズデミール大臣：ウクライナ戦争の影響下での漁業支援を増額

ー 7 月発足の漁業補助金の最高限度額を 75 000€ にー（2022・8・16）

オズデミール大臣は、漁業経営に対する補助金最高限度額を、35　000€（約 455 万円）から 75　000€（約 975 万円）に引き上げることを表明した。連邦食料・農業省は、7 月に漁業経営のための小規模経営支援プログラムをスタートさせた。特にウクライナ戦争の結果のもとで、苦しんでいる漁業者を支援する。

未だに続いている戦争状態に直面して、経営当たり最大 35　000€（約 455 万円）の支援額を、75　000€ に明確に引き上げる。特に上昇している経営コストは、北海ーバルト海で操業しているドイツの漁業者を、さらに困難に陥れている。

大規模漁業経営（40m 以上の長さの漁船対象に）について、小規模支援の最高額では、経営コストの上昇を補いきれない。このため、経営当たりの最高額がの引き上げでもって、ドイツ漁業経営をこの難しい状況の下で、経営維持を図る。既に小規模支援金を申請ないし既に支払われている漁業経営は、新たな申請が必要でない。連邦農業・食料庁（BLE）は、新しい上限額を現在進行中の申請を配慮して、既に処理している額が少ない漁業経営について、必要に応じて支援額を引き上げる。

この増額は、期限付きの危機枠組みに適応して、支援プログラムのスタート後であっても、ＥＵ－委員会が事後決定する。漁業における今の支援補助を、経営当たり 75 000€ を認可する。連邦食料・農業省は漁業ー小規模支援のＥＵ－法の認可に基づき、十分裁量の余地でもって、実行している。

この小規模漁業経営支援は、2021 年に活動している漁業経営者が漁船対象に補助金を手にできる。加えて前提条件は、漁業者が 2022 年 2 月 24 日以降、この漁船で活動していることである。または、今年も活動していること。

バルト海でのタラ・ニシン漁船

北海でのニシン漁

２０２２・８・２７訳
青森中央学院大学
地域マネジメント研究所
中川 一徹